

**取組名称：やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開**  
**大学名：山口県立大学**

○取組概要 副題「山口市の都市部と田園部におけるワークショップ型授業による団塊世代と若者の定住促進」が示すように「地域が教科書・地元が先生」ととらえ地域共生授業で学生自身が地域の希望の星となる。

● **取組の内容・ポイント**

地域共生授業で地域と大学の教育力を統合する



● **取組の成果**

**山口市地域再生計画 数値目標を超過達成**

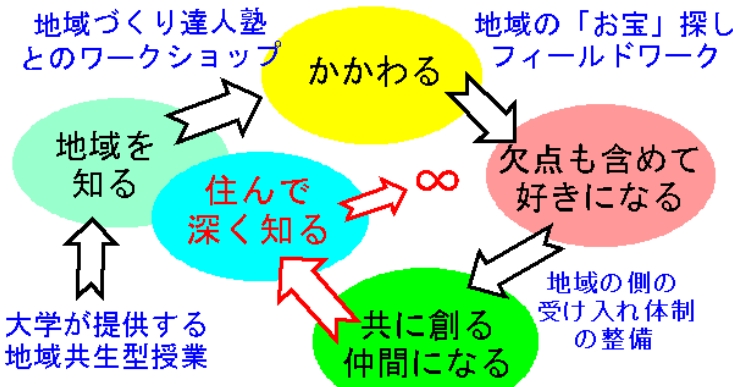


- ・受講生約600名。卒業後も地域に関わり続ける者24名(図の★印)。住民主体の地域づくり塾15カ所、塾生756名(リーダー85名)。
- ・地域作りハンドブック3冊。映画2本。地域再生フォーラム3回。ブログによる発信159回。大学予算で2年間のGP承継が決定。

● **学内外からの評価**

みこしに向い深々と頭を下げるおじいさん、涙を浮かべて手を合わせるおばあさん……昨年履修した村上陽子さん(19)は語る「自分たちが祭りを楽しみ、その姿を見た地域の人々が元気になればそれが地域貢献につながる。授業は1度きりだけど、祭りを続けていくため来年も参加したい」(『読売新聞』全国版「大学を歩く」安井隆之記者 2009年9月11日)

地域との関わりの「知・係・愛・創」のスパイラル



若者の地域課題解決への参画と定住策へむけての基本的構図